

# 知覚感受する力を育てる小学校音楽科教育の研究

## ～音楽の構成要素を軸とした学習展開の可能性～

教科・領域教育学専攻

芸術系（音楽）コース

M08194A

朝雲 知子

### 1. 動機と目的

本研究は、音楽の構成要素を軸とした学習展開の可能性を広げることで、知覚感受する力を育て、音楽科教育をとおして音楽の本質に迫ることを目的とするものである。

知覚感受とは、リズム、メロディ、テンポなどの音楽の構成要素を適切に聴き取り、それらの要素が楽曲全体に及ぼす効果を感じ取ることである。この知覚感受する力を育てる学習過程の重要性を音楽教育の中で哲学的に示したのは、アメリカの音楽教育学者ベネット・リーマー (Bennett. Reimer) である。1970年に出版された彼の著書“A Philosophy of Music Education”にその方向性が示されている。また、これは、平成20年3月告示の新学習指導要領に新設された〔共通事項〕の指導内容の一つでもある。

また、音楽心理学者ジェームス・L・マーセル (James.L.Mursell) や、指揮者で作曲家のレナード・バーンスタイン (Leonard Bernstein)、リーマーなどの研究者が共通して述べていることは、「音楽の本質とは、音楽をとおして感情に迫ること」である。それは、客観的な音楽の構成要素を媒体として、作曲家が音楽に投入した主観的な感情を味わうことであり、音楽科は、曲の中に存在する感情をとおして「人間の感情」を学ぶ教科であると言える。音楽の構成要素を

適切に聴き取り、作曲家が表現しようとした感情を洞察することで、洞察の共有（音楽をとおして作曲者と感情を共有すること）が行われる。そして、これはこの知覚感受する過程を高め深めていくことで可能となると考える。

そこで、本論では、音楽内部の感情に触れるために、知覚感受する力を育てる小学校音楽科教育の研究を行う。

### 2. 論文構成

はじめに

#### 第1章 知覚感受の概念

##### 第1節 音楽科の教育的価値

##### 第2節 知覚感受の定義

#### 第2章 音楽の構成要素を軸とした学習展開

##### 第1節 音楽の構成要素

##### 第2節 学習展開の可能性

#### 第3章 知覚感受する力を育てる楽曲分析

##### 第1節 分析の視点

##### 第2節 楽曲分析

#### 第4章 知覚感受する力を育てる

小学校音楽科の授業

##### 第1節 知覚感受する力を育てる学習展開

##### 第2節 音楽の構成要素を軸とした学習展開

##### 第3節 学習展開の考察

おわりに

### 3. 論文の概要

第1章では、この音楽の教育的価値の理念に基づいた知覚感受の概念をまとめた。

第1節では、音楽科の教育的価値を次の3点とし、学習のあり方を考察した。

- (1) 音楽の本質の理解
- (2) 音楽に内在する感情の洞察による社会を生きる人間の感情の理解
- (3) 感情の洞察の発達に伴う音楽的成長と知識技能の習得

第2節では知覚感受の定義を行った。まず、リーマーの哲学的な見解による知覚感受の過程を考察し、次に、新学習指導要領に新設された〔共通事項〕に見られる知覚感受の定義づけを行い、最後に、本論文における知覚感受の定義づけを行った。

第2章では、音楽の構成要素を軸とした学習展開の可能性について述べた。

第1節では、音楽の構成要素の意味づけを行い、第2節では、「音楽の理解」「音楽心理学」「発達心理学」「授業の構想力」「鑑賞と表現領域」のそれぞれの角度から、音楽へのより積極的な関わり方を考察し、学習展開の可能性を広げるようにした。

第3章では、以下の楽曲を、知覚感受する力を育てる観点で分析を行った。

- (1) F・シューベルト作曲  
ピアノ五重奏曲『ます』より 第4楽章
- (2) C・サン＝サーンス作曲  
組曲『動物の謝肉祭』全曲
- (3) L・アンダーソン作曲  
『ワルツィングキャット』

- (4) G・マーラー作曲

『交響曲第1番』より 第3楽章

- (5) M・ムソルグスキー作曲

M・ラヴェル編曲

組曲『展覧会の絵』より 抜粋

第4章では、第3章で行った楽曲分析を生かし、次の(1)～(5)の視点で学習展開を提案した。

- (1) 音楽の中の感情を味わう。
- (2) 音楽の特定の構成要素を集中的に聴き取り、音楽全体の気分を感じ取る。
- (3) 低学年は「音楽を聴く」習慣をつけ、「身体で音楽を楽しむ」こと、中学年、高学年は「感情の洞察」「洞察の共有」を目指す。
- (4) 鑑賞の能力を育て、表現へ発展させる。
- (5) 限定的な発問方式で授業を進める。

学習展開中の学習過程は次のとおり示した。

- |         |         |      |      |
|---------|---------|------|------|
| ① イメージ  | ② 知覚    | ③ 思考 | ④ 感受 |
| ⑤ 感情の洞察 | ⑥ 洞察の共有 | ⑦ 理解 |      |

以上の視点で、第1節は、知覚感受する力を育てる具体の学習展開を提案し、第2節は、音楽の構成要素を軸とした学習展開を提案し、第3節で考察を行った。

### 4. 今後の課題

本研究では鑑賞、音楽づくりを中心に学習展開を提案したが、歌唱・器楽領域においても、知覚感受する力を育てる中で、様々な感情に触れる手立てを工夫したい。またこの提案授業を本格的に実践し、考察し、改善し、再び実践していく中で、知覚感受する過程を高め、より深く掘りさげていきたい。

主任指導教員 草野次郎